

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2016.10) 平成27年度:11.

“C型慢性肝炎患者の治療選択における意思決定と治療を継続する要因を踏まえた看護支援”～新薬プロテアーゼ阻害剤による三剤併用療法を選択した患者のインタビューを通して～

新田 恵理, 齋藤 春香, 奈良 麻未

C型慢性肝炎患者の治療選択における意思決定と治療を継続する要因を踏まえた看護支援～新薬プロテアーゼ阻害剤による三剤併用療法を選択した患者のインタビューを通して～

旭川医科大学病院 6階西ナーステーション ○新田恵理 齋藤春香 奈良麻未

【目的】

2013年に抗ウイルス剤「プロテアーゼ阻害剤(以下新薬と表記する)」が登場し、2013年11月から一般臨床で使用可能となった。C型慢性肝炎患者が長い闘病生活を経て、新薬による三剤併用療法を受けることを意思決定し、治療を継続している要因を明らかにし、患者の意思決定支援および今後の闘病生活を支持していく看護介入を検討する。

【研究方法】

- 1) 研究デザイン：質的記述研究
- 2) 研究期間：平成26年8月～11月
- 3) 対象者：A病院に、新薬による三剤併用療法にて外来通院している患者4名。
- 4) データ収集・分析方法：半構成的面接で得られたデータから逐語録を作成し、コード化・カテゴリー化した。
- 5) 倫理的配慮：研究の目的、プライバシーの保護、不参加や中断することによる不利益は受けないことを書面及び口頭で説明し、同意を得た。また、本研究は院内倫理審査会の承認を得て実施した。

【結果】

- (1) 新薬による三剤併用療法を選択した患者の治療選択における意思決定の要因として39のコードから27のサブカテゴリーと8のカテゴリーが抽出された。【過去の苦痛体験】は〈インターフェロン療法による副作用の辛さ〉〈副作用による治療の中断〉他、【治療と向き合ってきた経験】は〈インターフェロン療法を1年間継続した〉他、【新薬への不安】は〈副作用への不安〉他、【新薬への希望】は〈完治したい〉〈疾患の進行を遅らせたい〉他、【生きることへの希望】は〈家族のために元気でいたい〉〈同病者へ希望を与えたい〉他、【医師からの勧め】は〈医師からの勧め〉、【家族からの後押し】は〈家族の治療への後押し〉、【治療できる環境】は〈通院時間が十分に確保できる〉他で構成された。
- (2) 患者が治療を選択し継続できている要因として24のコードから15のサブカテゴリー、4つのカテゴリーが抽出された。【効果の実感】は〈血液データの改善〉〈仕事への復帰〉他、【副作用への対応】は〈副作用症状の理解〉他、【家族・同病者の存在】は〈家族が疾患の経過を理解している〉〈同病者の存在〉他、【医療者のサポート】は〈看護師が話を聞いてくれる〉他、で構成された。

【考察】

1) 意思決定の要因

患者の中にはインターフェロン療法の副作用で治療を断念せざるを得ない人もおり、【過去の苦痛体験】は【新薬への不安】に繋がっていた。しか

し、その一方で【治療と向き合ってきた経験】が自信や強みとなっていた。また、【生きることへの希望】は【新薬への希望】に繋がり、意思決定に影響していたといえる。患者は、【医師からの勧め】により新薬での治療を選択しており、これは医師への信頼があったためだと考える。また、近くで患者を支えている【家族からの後押し】、さらに【治療できる環境】が整っていることも意思決定を促進する要因となっていた。

2) 治療継続の要因

新薬による【効果の実感】が患者の自信や安心感に繋がっており、治療継続に対する前向きな気持ちを支えていると考える。また【副作用への対処】は、患者がこれまでに【治療と向き合ってきた経験】が影響しており、治療継続にあたり一つの強みとなっていると考える。さらに【家族・同病者の存在】【医療者のサポート】も治療継続に対する意欲や生きる希望に繋がっていると考える。

3) 意思決定の看護支援

看護師は患者の闘病生活の経緯を理解し、患者の新薬に対する希望を理解することが重要である。さらに、患者が医療者から十分な情報提供が受けられるように、環境を整える必要がある。また、家族や周囲の人々のサポート状況を把握し、患者が治療できる環境であるかをアセスメントしていく必要がある。

4) 治療継続の看護支援

治療継続においては、新薬の効果や副作用が大きく影響していることが明らかとなった。そのため、看護師は患者の生活上の変化や、これまでの副作用への対処方法を把握することが重要である。さらに、患者が新薬に対してどのような期待を抱いているかを把握することも必要である。

【結論】

- 1) 意思決定の要因は【過去の苦痛体験】【治療と向き合ってきた経験】【新薬への不安】【新薬への希望】【医師からの勧め】【家族からの後押し】【治療できる環境】であった。そのため、意思決定支援においては、これまでの治療経験から新薬への希望や目標が異なることを理解し、患者が必要とする情報が得られるように環境を調整する必要がある。
- 2) 治療継続の要因は【効果の実感】【副作用への対処】【家族・同病者の存在】【医療者のサポート】であった。そのため治療継続支援においては、副作用への対処方法や患者が新薬に対して抱いている期待がどのようなものを把握する必要がある。